

(様式4-2) (用紙寸法は、日本工業規格A列4とする。)

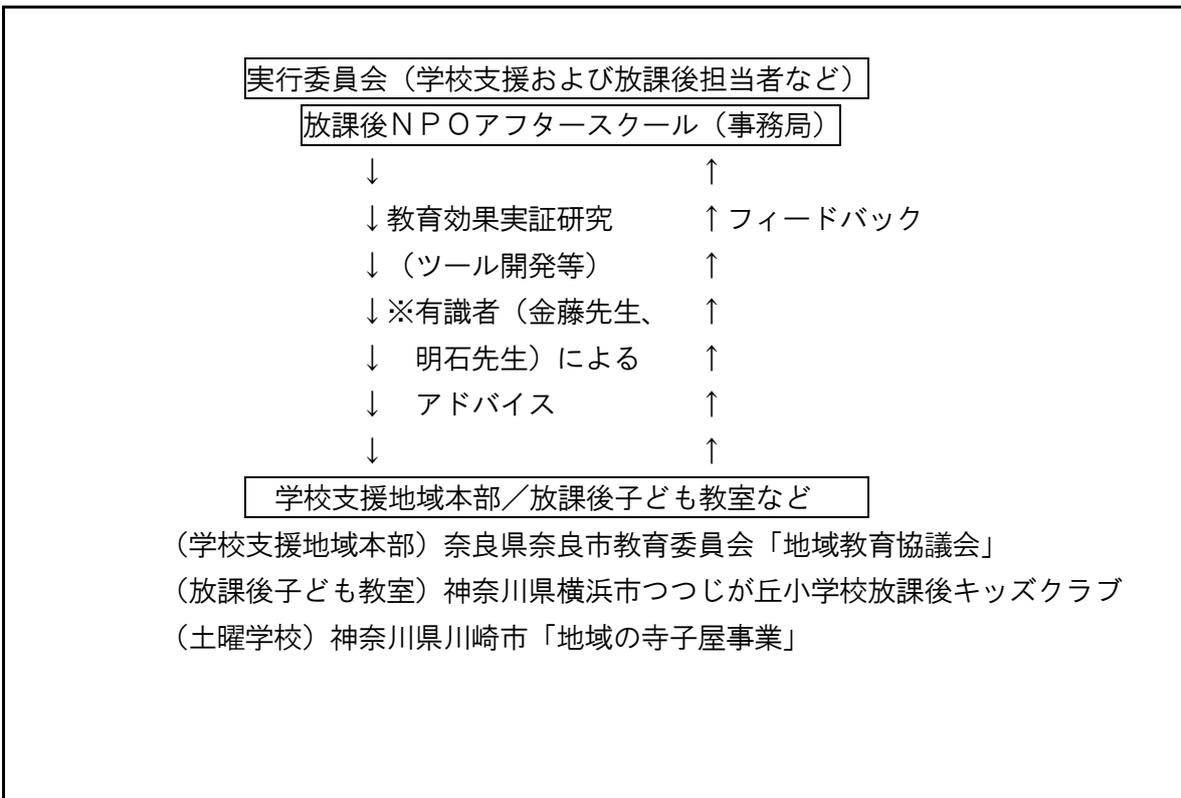
成果報告書

1. 実証研究組織の構成

氏名	所属・役職等	備考欄
織畑研	放課後 NPO アフタースクール 副代表理事	事務局
田中みどり	元小学校教員	
浜田邦子	横浜市つつじが丘小学校放課後キッズクラブ主任 指導員	
松田義秀	奈良県奈良市教育委員会 地域教育課課長	

2. 事業の実施体制 (再委託先まで含めた事業実施体制について図示すること。)

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること (別紙を添付することも可)。



3. 実証研究のスケジュール

	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
実行委員会	○						○
情報収集	←→						
たたき台作成	←→						
意見収集	←→						
β版作成					←→		
現場テスト					←→		
ツール完成							←→

4. 選択したテーマに応じた解決すべき課題

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること（別紙を添付することも可）。

本事業では、学校と地域の連携・協働による教育効果・成果の検証手法を実証研究するにあたり、以下の課題設定を行った。

- ・学校と地域が連携する体制づくりがしっかり作られているか、維持できているか
- ・学校と地域をつなぐコーディネーターがいるか、育成できているか

これらの課題設定の背景には、学校地域支援や放課後活動において、継続的に活動が続かない理由があるのではないかと、そしてその理由の一つに「活動による教育効果・成果がどのように出ているのかを検証する明確な手法がない」ことが挙げられるのではないかと、という仮説があった。このような「検証する明確な手法がない」ことで、コーディネーターや現場担当者は、実施している活動内容が良いのか悪いのかが判断できない、または活動内容に確信が持てない、などの問題を抱えているのではないかと考えた。

さらに今後、現在各学校区で行われているさまざまな活動の教育効果を、同じ指標で評価できるように、共通する検証手法が必要となるのではないかと考えた。

具体的には、たとえば各学校区で行われているさまざまな活動の中で、学校と地域を結ぶ学校支援地域本部においては、

- ・地域等の巻き込みがしっかりできているか
- ・学校業務の支援は充実しているか
- ・総合的な学習への支援はできているか

放課後の活動においては、

- ・地域人材の取り込み、活用ができているか
- ・コーディネーターを活用できているか
- ・子ども主体の活動になっているか

などの視点から、子どもたちにとって魅力的な社会教育を提供できているか、教育効果はどのくらいか、などの検証が必要なのではと考えた。

しかし、各現場へのヒアリングや有識者からのアドバイスで、少し異なる課題が見えてきた。

当初の本事業計画では、学校と地域の連携のモデルケースとなる活動（奈良市教育委員会から学校地域支援本部の事例、横浜市放課後キッズクラブの放課後活動）からヒントを抽出し、評価ツールの尺度となる理想の活動（評価軸）を作ろうと目指した。だが、有識者（明石先生）より、「モデルケースは理想の活動に近いかもしれないが、その活動が実際に子どもへの効果として検証しきれていない。その検証に向けたデータが不足している。」という理由から、現時点で理想の活動の特定は難しいとの指摘を受けた。

そのため、文部科学省の担当官と協議を行い、活動自体の評価ではなく、評価に必要な調査の実施（地域における学校支援の活動の調査および、子どもの状況調査）に変更した。

＊今後の各活動の評価につながる調査結果を得て、子どもの変化や活動の内容や質等、多方面から活動の教育効果・成果を分析可能となるデータの取得を目指す。

5. 実証研究の目的、実施内容及び実施方法等

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること（別紙を添付することも可）。

以下は当初の目的、実施内容及び実施方法。その後、各現場のヒアリングや有識者、文部科学省ご担当者の意見等を参考の上、変更を行った。

<事業当初の目的、予定実施内容、実施概要>

【目的】

各学校区で行われている学校地域支援や放課後活動において、教育効果・成果を検証し、それを明確化することで、学校と地域の連携・協働する体制を構築できているか、社会全体で子どもたちの教育に取り組む体制になっているか等を確認する。

【実施内容】

1、ツール作成

教育効果をはかるツールを作成する。このツールは各事業関係者（学校地域支援や放課後活動にかかわる現場スタッフやコーディネーターを中心とした人材）が使用し、学校と地域の連携による教育効果をはかれるチェック項目等を盛り込んだもので、関係するすべての人たちがなるべく使いこなせるものとする。

このツールの内容は学校・家庭・地域など多岐にわたる項目から成り立ち、各関係者の自己採点表という形をとる予定だが、教育効果測定においてはその効果を長期的に見る必要もあるため、毎年度活用でき、また振り返りや反省を踏まえて次年度のより良い活動につながるような要素を取り入れることとする。

※学校地域支援と放課後活動で項目は異なると考えられるので、別々のツールで作成

なお、ツール作成にあたっては、関係者の意見等を取り入れるのはもちろん、有識者の意見も取り入れ、目的にかなうチェック項目を含んだ検証ツールになっているか確認・検証を行う。

2、ツールの活用および教育効果の検証

学校地域支援関係者および放課後関係者に本ツールの活用を依頼。実際に使用していただき、普段活動している社会教育活動についての効果検証に使用してもらう。また、使用して

いく中で不足項目等を指摘していただき、ツールの改修の参考とする。

3、ツールの再修正

学校地域支援関係者および放課後関係者から上がった修正ポイントや、有識者の意見等も取り入れながら、本ツールの再修正を行う。各地域で本ツールを活用していただいた成果を持ち寄ることで、どの地域でも汎用的に使えるツール（完成版）とする。

※遠方のツール活用の成果等は、メール等のデータのやり取りや電話でのヒアリングで行う。

【実施方法】

1、現場の視察

学校地域支援および放課後の現場に見学およびヒアリングを実施。対象は奈良市教育委員会から学校地域支援本部の事例、および横浜市放課後キッズクラブの放課後活動を予定。

特に学校と地域の連携、子どもたちにどういった教育効果をもたらしたいか、などを中心にヒアリング実施し、ツール作成のヒントとなるキーワードや項目を拾う。

2、実行委員会事務局メンバーにてツールのたたき台作成

有識者からの助言をいただく前に、事務局メンバーにて現場ヒアリングをもとにツールのたたき台を作成。学校地域支援と放課後活動では活動内容や目的等も異なるため、ツールの中の項目は別々のツールで作成する。ツール作成においては、学校・家庭・地域に関する項目も意識し、多岐にわたる評価指標になるよう気を付ける。

※実行委員に地域連携を深めている自治体の地域コーディネーターを含め、実行委員会時に各々の取り組みについて情報を共有し、ツール作成の参考とする。

3、有識者からの助言

たたき台として作成したツールをもとに、明石先生、金藤先生の助言をいただき、ツールを精査する。

※明石要一（文部科学省中央審議会、生涯学習分科会臨時委員、スポーツ・青少年分科会臨時委員）、金藤ふゆ子（文教大学・人間科学部・教授）

4、現場での活用

作成したツールは学校地域支援と放課後活動にかかわる関係者に配布。その際は実行委員会の方を中心に協力していただく。活用したツールは使用后すぐ回収し（遠方の場合はメール等を有効に活用）、その際に使用の効果、感想、追加項目等フィードバックをしていただく。

5、最終ツール完成

現場からのフィードバックを受けツールを改修、再度有識者に助言をいただき、最終ツールの完成とする。

<変更後の目的、実施内容、実施概要>

【目的】

各学校区で行われている学校地域支援、放課後活動や土曜授業においてその活動の実態と、

その活動の対象者である子どもの実態を定量的に把握すること（調査すること）。

※次のステップとして、この定量的な把握結果をもとに、活動と子どもへの相関関係を実証。目指すべき活動体制（学校と地域の連携・協働する体制になっているか、社会全体で子供たちの教育に取り組む体制になっているか）を設定し、評価できる仕組みを整えていく。

【実施内容】

1、ツール作成

活動状況と子どもの状況を調査するツールを作成する。このツールは各事業関係者（学校地域支援や放課後活動にかかわる現場スタッフやコーディネーターを中心とした人材）が記入し、各事業関係者の活動状況および対峙する子どもの状況を客観的に洗い出せるものとする。活動状況を把握するツール（活動調査票）の調査項目は、計画・実行・振り返りなど組織運営全般を網羅する項目で作成する。また、子どもの状況を把握するツール（子ども調査票）の調査項目は、子どもを精神・身体・習慣の3観点から全体的に把握できるように作成する。

2、ツールの活用および教育効果の検証

学校地域支援関係者および放課後関係者に本ツールの入力を依頼。実際に記入していただき、普段活動している社会教育活動の状況を洗い出す。また、記入していく中で記入しにくい点や、不足項目等を指摘していただき、ツール改修の参考とする。

3、ツールの再修正

学校地域支援関係者および放課後関係者からあがった修正ポイントや、有識者の意見等を取り入れながら、本ツールの再修正を行う。各地域で本ツールを記入いただいた感想を取り込むことで、使い勝手を向上させるツールを作成する。

【実施概要】

1、現場の視察

奈良市教育委員会の松田様・高塚様、横浜市放課後キッズクラブ浜田様、横浜市立つつじが丘小学校学校地域コーディネーター山市様にヒアリングを実施。学校地域支援・放課後活動それぞれ、どのような活動を行っているか聞き出した。ヒアリングの結果、各活動ともに細かい差異はあれど、重要視することの共通項がいくつか存在した。（ex. 目標を明確にする、活動の継続性を重視する、予算使用状況をクリアにする）

2、実行委員会事務局メンバーにてたたき台作成

上記視察の結果を実行委員会事務局に持ち帰り、たたき台の方向性を検討。各団体が重視することが共通していたことから、その内容を言語化し評価の観点として設定できるのでは、と考えた。また、評価の観点を実現するために必要なアクションをヒアリングより拾っていたため、観点別に必要なアクションがとられているか、どうかを評価の方法（アクションがとられている数が多い方が良いとする考え方）と仮置きし、第一回の調査票のたたき台を作成した。

※この時点でのツールは「評価シート叩き台A」を参照

3、有識者からの助言

<金藤ふゆ子先生（文教大学・人間科学部・教授）からの助言>

上記「評価シート叩き台A」を、金藤ふゆ子先生、文部科学省ご担当者へ報告、意見をいただく。金藤ふゆ子先生より、アクション（行動）の有無で良し悪しを判断する難しさ（注：参照）をご指摘いただく。また代替案として、目指すべき姿を段階（初級・中級・上級）別に設定し、その到達状況で評価を行う海外の先進事例の紹介をいただく。

そこで、目指すべき姿を、文部科学省として重視している観点（組織の設置、活動、持続／発展）とし、それぞれの観点を目指すべき姿を段階別に設定。その到達状況によって評価するシートに切り替える方向となった。＊アクション数での評価から切り替える。

注：難しい理由

アクションには、重みがあるため、単純に数だけで判断するのは危険。その危険を回避するためには、アクションごとに係数を設定する必要があると思われるが、係数設定は難易度が高いのではないかと。

※金藤ふゆ子先生からの助言を経て変更されたツールは「評価シート叩き台B」を参照

<明石要一先生（文部科学省中央審議会、生涯学習分科会臨時委員、スポーツ・青少年文化会臨時委員）からの助言>

金藤ふゆ子先生からの助言を経て、変更した叩き台を明石要一先生へ報告、ご意見をいただく。ここで、このたたき台の大きな問題点を指摘される。その指摘は以下の2点。

①現状のたたき台は組織の活動プロセス評価だけに特化しているが、組織の活動プロセスは子どもの成長が目的のため、子どもへの影響を把握しないといけない。

②目指すべき姿を仮置きしているが、この姿が本当に子どもに対して成長を促せる姿なのか、現時点ではわからない（＝目指すべき姿そのものへの問題指摘）。

また、明石先生がおっしゃるには、目指すべき姿を設定するのであれば、組織の活動の実態を調査したうえで、子どもへの影響との因果関係を実証する必要がある。だが、現時点では実証に必要なデータが不足している、とのこと。そこで、この場で実行委員会メンバー、文部科学省ご担当者、明石先生と協議を行い、今回の事業の目的を、組織の活動状況調査と子どもの状況調査（注：参照）に切り替えることで合意する。

注：子ども評価表の尺度について

子どもの状況調査には明石要一先生が共通で使用している尺度があるため、その尺度を基本踏襲する。（参考資料「明石先生の子どもの調査シート」）

4、β版の作成

前述のご指摘をもとに、実行委員会メンバー内で再検討を行い、β版のツール（活動の調査、子どもの調査）を作成する。活動の調査ツールでは、活動の全容をくまなく洗い出すために活動の計画・実施・振り返りの観点を設置する。また、当初予定していた区分（地域学校支援・放課後活動）も撤廃（注：参照）することで合意する。

注：計画・実施・振り返りの観点で見た場合、地域学校支援・放課後活動で異なるのは、実施の項目のみ。また、実施で設置した設問内でも重複する個所が多くあったため。

※この時点で作成したツールは「活動調査票β」「子ども調査票β」を参照

5、現場での活用

上記で作成した調査票2点を、活動現場である下記の学校に配布。使い勝手に関する調査を実施した。

<<配布した調査票>>

- ①子ども調査票（子どもの状況を精神、身体、習慣の3観点から調査するシート）
- ②活動調査票（活動の状況を計画、実行、振り返りの3観点から調査するシート）
- ③使い勝手に関する意見・感想

<<調査協力者・団体>>

奈良市教育委員会「地域教育協議会」総合コーディネーター21人

川崎市「寺子屋事業」7か所

横浜市放課後キッズクラブ

横浜市立つつじが丘小学校学校地域コーディネーター 3名

木更津教育委員会 3か所

<<回収状況>>

調査票（子ども調査票）37枚

調査票（活動調査票）19枚

ツールの使い勝手に関するアンケート 26枚

※回収した資料は、「現場回収資料」を参照

6、最終ツール完成

現場への調査の結果あがってきた使い勝手に関するアンケートをもとに、ツールの修正を実施する。ただし、アンケートのコメントが多岐にわたっていたため、コメントをグルーピングし、直すべきところ、直さないところを実行委員会メンバー内で協議し取捨選択を行う。本内容を明石要一先生へ連絡し、最終確認を頂き最終的な納品物として仕上げた。

主なコメント：

-質問の聞き方

(ex. 子ども調査票、生活習慣の設問 No6. 「ペタンペタンという音を出す」の意味がわからない)

-回答方法に関するもの

(ex. 全員となると、答えにくいので別の回答にしてほしい。大半、ほぼを統一してほしい)

-調査項目に関するもの

(ex. 設問が、中学校向けな気がした。自分たちの活動にはそぐわない設問がある)

-回答者に関するもの

(ex. 子ども調査票は、学校の先生や保護者に聞くべき)

-その他

(ex. 自分たちの活動を振り返る良い機会になる。何が不足しているのか見える)

6. 実証研究で得られた成果

※必ずしも様式に収める必要はないので、詳細に記載すること（別紙を添付することも可）。

【成果】

1. 学校地域支援および放課後活動の活動実態把握ツール（活動調査表）

地域の活動団体が、地域・学校・子どもに対して行っている活動を、同一の観点で把握するための調査票。調査票は、計画段階（Plan）、実行段階（Do）、振り返り段階（See）の3観点で構成。観点毎に、質問項目をならべ、各団体がどのような活動を行っているか選択式で答えられるように作成した。

2. 上記取り組みによる子どもへの効果把握ツール（子ども調査表）

子どもの現状を、同一の観点で把握するための調査票。調査票は、身体・精神・習慣の3つの観点で構成。観点毎に、質問項目をならべ、子どもがどのような状況にいるのかを選択形式で答えられるように作成した。

※上記ツールを現場活用して得られた結果（調査票、意見・感想）は、「現場回収資料」を参照

【課題】

1. 調査ツールとしての残課題

下記は主に現場での使用を通じてあがってきた声。

<活動調査票>

①活動内容との乖離が大きい場合がある

設問と答えの選択肢が、小規模運営組織～大規模運営組織までくまなく答えられるようにしているため、運営組織によっては、設問が実態とかい離しているという印象を与える。

②活動運営主体・活動実施主体が異なる場合答えにくさが残る

Plan-Do-Seeの観点で設問を設定しているため、運営主体と実施主体が異なる場合、Planを運営主体、Doを実施主体の組織にそれぞれ回答頂く必要がる。

<子ども調査票>

①活動内容によって答えられない設問がある

例えば、食事の食べ方に関する質問の場合、組織によって子どもに対して食事を扱わないケースがあり、答えられない。椅子の座り方に関しての質問の場合、椅子を使わずに運営しているケースがあり、答えられない。

②設問に沿った子供を育てていかななくてはいけないのか？という指摘があがる

例えば、設問「椅子の背にもたれてすわらない」の場合、組織により放課後はリラックスさせることに注力しているため、設問のような指導を行っていない。そのため、設問には否定的な回答をせざるを得ない。（こう育てなくてはいけないのか？という声につながる）

2. 評価ツール開発（当初の目的）に向けての課題

今後、得られた調査結果をもとに各活動における評価ツールを開発していくにあたり、以下の点が課題になってくると考えられる。

①一定量の調査ツールの回答回収

②調査ツールの活動調査と子ども調査の因果関係の明確化

③目標とする活動・子どもの状態の言語化

この課題を解決することで、各地域で使用できる汎用性ある評価ツールの作成につながっていくと考えられる。

評価シート叩き台A（学校地域支援活動Ver.）

大項目	小項目	■奈良県からのフィードバック	■コーディネーター山市様からのフィードバック	調整観点
		評価観点	評価観点	
活動体制	活動目標	学校の教育方針を把握していますか。	学校の教育方針を把握しているか	奈良のコメントイキ
		学校の教育方針に基づいた目標(目指す子ども像)を設定していますか。	組織と学校の教育方針が一致しているか	奈良のコメントイキ
	活動内容	組織の目標に即した活動内容を設定していますか。	組織の狙いに即した活動範囲を設定しているか	奈良のコメントイキ
		組織の体制が持続可能なものになっていますか。	組織の活動範囲が継続・維持できる内容になっているか	奈良のコメントイキ
	予算確保	活動に必要な予算を確保していますか。	活動資金の確保ができていますか	奈良のコメントイキ
	支援人材	人材の役割と協力体制を明確にしていますか。	人材の役割と協力内容を明確にしていますか	奈良のコメントイキ
		必要な人材を発見し、活用する体制ができていますか。	必要な人材(地域とのパイプを持っている人材)を確保できているか	奈良のコメントイキ
	共通理解	学校と情報共有できる体制ができていますか。	学校と密に情報共有できる仕組みができていますか	奈良のコメントイキ
コーディネーター間の情報共有の体制ができていますか。		コーディネーター間の情報共有の方法が決まっているか	奈良のコメントイキ	
活動運営	学校との連携	学校が望む支援活動ができていますか。	学校の協力体制が得られているか	統合
		成果や課題を検証できていますか。	学校と定期的に情報共有を行っているか	統合
	ボランティアとの連携		ボランティアを定期的に確保しているか	不要?
			多様なボランティアを確保できているか	不要?
			確保したボランティアの活用が図れているか	奈良に合わせる?
		ボランティアと共通理解を図って活動をしていますか。	ボランティアに活動の趣旨や留意点を事前に伝えているか	不要?
		ボランティアの意見を聞き、活動に反映させていますか。		奈良のコメントイキ
	地域との連携	活動の成果を情報発信できていますか。	活動の情報発信の仕組みが整っているか	奈良のコメントに統合
			情報発信は定期的におこなっているか	
		活動が地域の教育力の向上につながっていますか。		奈良コメントの意図するところを把握
振り返り	コーディネーターとして	必要な情報を収集し活動の見直しを行っていますか。	活動の評価をし、定期的に見直しを行っているか	奈良のコメントイキ
		持続可能な活動になっていますか。	担当が変わっても継続できる活動内容になっているか	統合(人・金の含みを持たせる)
		やりがいを感じることができていますか。	活動する人がやりがいを感じることができていますか	
		予算は計画通り執行できましたか。		奈良のコメントイキ(場所要検討)

その他コメント

・「コーディネーターを運用する組織の担当者」とは誰なのか。また、誰を対象にしてこのツールを使って評価するのがわかりにくい。コーディネーターなのか、組織の会長なのか。
 ・「事業の評価を意識している」とあるが、事業の評価なのか、個々のコーディネーターの振り返り評価なのか中途半端でわかりにくい。
 ・このシートで、何を知りたいのか、何を評価したいのかわかりにくい。
 ・「アセスメントツール」という言葉が難しいので、例えば「振り返りシート」などの方がよい。

評価シート叩き台B（学校支援地域本部Ver.）

補足：下記評価表内に登場する地域コーディネーターとは、学校単位で所属し、学校と協働しながら、放課後活動、学校支援活動の企画・実施を請け負う人となります。

指標	<p>【組織の設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な子供のために行動する地域住民が一堂に会する地域本部などの仕組みがあり、地域と学校を結ぶ地域コーディネーターが育っている。 	<p>【組織の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校園内外で子供が参加する行事や、学校園の課題や要望を受けた教育支援活動が充実している。 	<p>【組織の持続発展】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域連携において、地域と学校が「目指す子供像」を共有できており、地域住民を中心とした多様な人材が活動をおこなっている。 学校の教育課程に連携活動がすすんでいる。また、教育活動における、多様なリソースの活用など地域側からも学校園に提案がある。 地域コーディネーターが複数育っており、学校と地域間の連携を推し進めている。
----	--	---	---

	目指す状態	チェック項目	目指す状態	チェック項目	目指す状態	チェック項目
初級	<p>【組織の設置】</p> <p>組織として活動するために、必要な人材、組織の仕組みを整えている。</p>	<p><input type="checkbox"/> 組織の役割分担は決まっていますか？</p> <p><input type="checkbox"/> 活動に必要な人員は集まっていますか？</p> <p><input type="checkbox"/></p>	<p>【組織の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校園の課題や要望を受けた教育支援活動を行っている。 	<p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p> <p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p> <p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p>		<p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p> <p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p> <p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p>
中級	<p>【組織の設置】</p> <p>組織として活動するために、必要な人材、組織の仕組みを整えている。</p> <p>組織の活動に関係者である地域住民、学校園を巻き込んでいる。</p>	<p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p> <p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p> <p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p>	<p>【組織の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校園の課題や要望を受けた教育支援活動を行っている。 活動を、定期的に行っている。 	<p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p> <p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p> <p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p>		<p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p> <p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p> <p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p>
上級	<p>【組織の設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域コーディネータを組織的に運営している。 地域コーディネータが定期的に活動を行っている。 組織運営に学校園のスタッフ/地域住民を巻き込んでいる。 地域コーディネーターの育成を行っている。 	<p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p> <p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p> <p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p>	<p>【組織の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校園内外で子供が参加する行事や、学校園の課題や要望を受けた教育支援活動を行っている。 活動を、定期的に行っている。 学校園からの課題や要望だけではなく、自組織から活動を提案、実施している。 	<p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p> <p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p> <p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p>		<p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p> <p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p> <p><input type="checkbox"/> ダミーダミーダミー</p>

評価シート叩き台B（放課後活動・土曜授業Ver.）

地域コーディネーターとは・・・学校単位で所属。学校と協働しながら、放課後活動、学校支援活動の企画・実施を請け負う人

指標	<p>【組織の設置】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な子供のために行動する地域住民が一堂に会する運営委員会などの仕組みがあり、活動を主体的に企画運営する地域コーディネーターが育っている。 	<p>【組織の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校園内外で子供が参加する行事や教育支援活動を年間を通して行っている。 ・全ての子供たちが参加できる居場所があり、学習・体験プログラムが展開されている。 	<p>【組織の持続発展】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援地域本部が設置されており、放課後、土曜に関しても組織的に運営できている。 ・プログラムを企画し実施するなかで、企業や大学など外部の人材を活用するなど、多様なリソースが関わるための工夫をしている。 ・学校や放課後児童クラブとの連携が行われている
----	---	---	---

	目指す状態	チェック項目	目指す状態	チェック項目	目指す状態	チェック項目
初級	【組織の設置】		【組織の活動】		【組織の持続発展】	
中級	【組織の設置】		【組織の活動】		【組織の持続発展】	
上級	【組織の設置】		【組織の活動】		【組織の持続発展】	

子ども調査票β

調査の目的: 子どもの実態を総合的に把握するための調査票です。

※項目によっては、活動の対象外のため(ex.食事の時間がない)わからない個所や、重要視していないためわからない、観察していない個所があると思います。その場合は、「わからない」を選択ください。

Q1. 子どもの生活習慣についての質問です。日頃の行動を見ていて感じる個所に☑をいれてください。全体の印象でお答えください。

		全員に当てはまる	大半に当てはまる	半数程度当てはまる	ほとんど当てはまらない	全く当てはまらない	わからない
生活習慣	1 相手の目を見て挨拶をする	<input type="checkbox"/>					
	2 自分から挨拶をする	<input type="checkbox"/>					
	3 椅子の背にもたれないで座る	<input type="checkbox"/>					
	4 両足の膝を揃えて座る	<input type="checkbox"/>					
	5 手は指を揃えてハの字に膝の上に置く	<input type="checkbox"/>					
	6 (靴を履いている時)ペタンペタンと音を立てて歩かない	<input type="checkbox"/>					
	7 かかとつぶさないで靴を履く	<input type="checkbox"/>					
	8 朝は「おはようございます」と言う	<input type="checkbox"/>					
	9 別れるときは「さようなら」と言う	<input type="checkbox"/>					
	10 食事(おやつ)のときは「頂きます」と言う	<input type="checkbox"/>					
	11 呼ばれたら「はい」と返事をする	<input type="checkbox"/>					
	12 はっきりと話すことができる	<input type="checkbox"/>					
	13 です・ます調で話すことができる	<input type="checkbox"/>					
	14 食べるときはクチャクチャ音を出さない	<input type="checkbox"/>					
	15 食べるときはよく噛んで食べている	<input type="checkbox"/>					
	16 ゴミのポイ捨てはしない	<input type="checkbox"/>					
	17 友だちの悪口は言わない	<input type="checkbox"/>					
	18 いじめをみたら止め(ようとする)	<input type="checkbox"/>					
	19 動物や花を大切にする	<input type="checkbox"/>					
	20 うそをつかない	<input type="checkbox"/>					

Q2. 子どもの生きる力についての質問です。日頃の行動を見ていて感じる個所に☑をいれてください。全体の印象でお答えください。

		全員に当てはまる	大半に当てはまる	半数程度当てはまる	ほとんど当てはまらない	全く当てはまらない	わからない
生きる力	1 小さな失敗を恐れていない	<input type="checkbox"/>					
	2 自分から進んでなんでもやっている	<input type="checkbox"/>					
	3 失敗をしても立ち直るのが早い	<input type="checkbox"/>					
	4 誰とでも仲良くできる	<input type="checkbox"/>					
	5 人の話をきちんと聞くことができる	<input type="checkbox"/>					
	6 わがママを言わない	<input type="checkbox"/>					
	7 嫌がらずに良く働く	<input type="checkbox"/>					
	8 人のために何かしてあげるのが好きである	<input type="checkbox"/>					
	9 すぐに疲れない	<input type="checkbox"/>					
	10 寒さや暑さに強い	<input type="checkbox"/>					
	11 健康的である	<input type="checkbox"/>					
	12 学ぶことに意欲的である	<input type="checkbox"/>					

Q3. 子どものやる気についての質問です。日頃の行動を見ていて感じる個所に☑をいれてください。全体の印象でお答えください。

		全員に当てはまる	大半に当てはまる	半数程度当てはまる	ほとんど当てはまらない	全く当てはまらない	わからない
やる気	1 いろいろなことにやる気をもっている	<input type="checkbox"/>					
	2 理由もなく悲しくなったり、やる気をなくしたりすることがない	<input type="checkbox"/>					
	3 むしゃくしゃしてカッとするすることがない	<input type="checkbox"/>					
	4 心配なことがあっても落ち着いていられる	<input type="checkbox"/>					
	5 人に対してありがたいという気持ちを表している	<input type="checkbox"/>					
	6 すぐに行動できる	<input type="checkbox"/>					
	7 好きなことに熱中できる	<input type="checkbox"/>					
	8 困っている人を助けることができる	<input type="checkbox"/>					
	9 姿勢が良い	<input type="checkbox"/>					
	10 いろいろな人と話をする	<input type="checkbox"/>					
	11 不調を訴えることがない	<input type="checkbox"/>					
	12 堂々としている	<input type="checkbox"/>					
	13 みんなと仲良くしようとしている	<input type="checkbox"/>					

以上です。ご協力ありがとうございました。